

葛飾区

緑化推進協力員だより

第50号



2024年12月 葛飾区緑化推進協力員会
協力 葛飾区環境部環境課緑と花のまち推進係

【表 紙】

緑化推進協力員と区内の花壇団体が参加する花壇管理講習会の様子です。花壇管理講習会は、緑化推進協力員が地域の指導者としてのスキル向上を図るため、また、花壇活動団体が適切な花壇管理の手法を学ぶため、千葉大学環境健康フィールド科学センターの渡辺均教授を講師にお迎えして、毎年実施しています。

令和6年度は、7月4日と12月6日に昨年度渋江公園に植えた宿根草とその管理方法について学びました。座学での講義を聞いた後に実際に現地の花壇でアドバイスを受けることができ、有意義な講習会となりました。

葛飾区緑化推進協力員は、葛飾区緑の保護と育成に関する条例に基づき葛飾区長から委嘱された、緑の保護と育成に関する区の施策に協力し、緑に関する知識と熱意を持って自主的な地域活動を積極的に推進していく区民のボランティアです。

緑化推進協力員会全体での活動、区内を4つのブロックに分け、それぞれの地域で行うブロック活動、地域における個人での活動など、緑化に関する様々な普及啓発や活動を行っています。

この「緑化推進協力員だより」では、緑化推進協力員の日頃の活動や、緑化について感じたこと・考えたことなどをまとめたもので、年に2回発行しています。

目 次

	題 名	ブロック	氏 名 ペンネーム	ページ
1	活動記録（前期）	第1ブロック		1
2		第2ブロック		2
3		第3ブロック		3
4		第4ブロック		4
5	緑を育てる幼児教育は人を育てること	第1ブロック	佐々木 定治	5
6	夏の花 ニチニチソウ	第1ブロック	引地 詔子	7
7	猛暑にも負けず♥	第2ブロック	五十嵐 美鈴	8
8	激暑の夏！ 「ナスとピーマン」収穫0ゼロの怖さ	第2ブロック	近藤 文子	9
9	白鳥4丁目公園としばしの別れ	第2ブロック	半田 建二	12
10	キルギスより天山山脈を眺めて	第2ブロック	鉄線蓮 (ペンネーム)	13
11	ヤマボウシと私	第2ブロック	荒井 ユキ江	16
12	夏と花と木と愛	第3ブロック	まあ〜ちゃん (ペンネーム)	17
13	シュンランがフリージアになった (雑草雑感 III)	第3ブロック	下井 守	19
14	教えられた 強い絆	第4ブロック	田中 アヤ (ペンネーム)	22
15	編集後記		編 集 委 員	24

第1ブロック活動記録(令和6年4月1日から令和6年9月30日)

月日	場所	活動名	内容
4月22日	立石エコプラザ	花いっぱい街づくり協議	役員会議
4月25日	金町地区センター	第一ブロック会議	会議
5月14日	憩いガーデン花壇	植え替え準備	花撤去と土づくり
5月20日	立石エコプラザ	花いっぱい街づくり協議	役員会議
5月21日	憩いガーデン花壇	植付け	夏苗植え付け
5月25日	金町地区センター	ゴーヤ緑のカーテン	講習会
5月26日	区役所	サロンド花いち	講習会
5月31日	水元中央公園	花苗処分	植え替え準備
6月1日	新柴又駅前	花壇活動	植え替え作業
6月3日	金町南口駅前	花壇活動	花苗撤去
6月8日	フロリズ花壇	花壇活動	植え替え作業
6月9日	葛飾テクノプラザ	環境緑化フェア	イベント参加
6月10日	金町南口駅前	花壇活動	花苗植え付け
6月29日	葛飾区全域	花壇審査会	区内17か所花壇審査
7月22日	ウイメンズパル	花いっぱい街づくり協議	役員会
7月28日	区役所	サロンド花いち	講習会
8月2日	区役所	緑化委員会	役員会
8月5日	ウイメンズパル	花壇コンクール表彰式	表彰式
9月2日	立石エコプラザ	花いっぱい街づくり協議	役員会
9月5日	中央図書館	第一ブロック会議	会議
9月9日	区役所	プロジェクト12	会議

随時 新柴又駅前花壇 水やり 草取り 花柄摘み

随時 フロリズ花壇 水やり 草取り 花柄摘み

活動記録(R6.4. 1～R6. 9. 30)

(第2ブロック)

月日	会場	会議名・事業名	内容
4/19	白鳥四丁目公園	花壇工事の為片付 花筏の会へバラ・アジサイ等 移植	3名
4/25	曳舟川親水公園	移植した花の水やり	1名
5/3	曳舟川親水公園	草取り	3名
5/15	曳舟川親水公園	花の片付け	2名
5/27	曳舟川親水公園	花の片付け	1名
5/29	曳舟川親水公園	ベアグラスなどの下草植付 丸太を敷いて歩道造り	2名
6/11	曳舟川親水公園	ひまわり(穂から育てる)苗植付	1名
6/14	曳舟川親水公園	花植付(千日紅、アメリカンブル ー、トレニア他)	4名
6/16	曳舟川親水公園	里親ガーデンの子ども達と花植 としゃぼん玉を楽しむ会	8名 親子参加 16名
6/25	曳舟川親水公園	花植付と防草シート張り	1名
6/27	曳舟川親水公園	穂からのひまわり植付	1名
7/10	曳舟川親水公園	草取り	1名
7/12	曳舟川親水公園	草取り	1名
7/16	曳舟川親水公園	草取り	1名
7/24	曳舟川親水公園	白鳥花壇から掘取のカンナ植付	1名
8/6	曳舟川親水公園	花手入と除草	1名
8/17	曳舟川親水公園	台風の後、花壇そうじ	1名
8/21	曳舟川親水公園	キバナコスモス切り取り撤去	1名
8/23	曳舟川親水公園	キバナコスモス切り取り撤去	1名
8/26	曳舟川親水公園	草取	3名
9/6	曳舟川親水公園	草取	2名

※水やり他管理は毎週各委員が自主的に実施。

月or火は半田委員が清掃・除草等を行ってくれている。

特に今夏の水やりは、朝4時～6時の間にと大変であった。

活動記録(R06.04.01-R06.09.30)

(第3ブロック)

月日	会場	会議名・事業名	参加者数・内容 など
4/13	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ、水撒	参加者 6 名
4/18	区役所	総会	ブロックから 17 名参加
4/24	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ、水撒	参加者 11 名
4/26	エコライフプラザ	ブロック会議	参加者 16 名
5/11	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ、水撒	参加者 10 名
5/22	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ、水撒	参加者 8 名
6/9	テクノプラザ	環境緑化フェア	ブロックから 6 名参加
6/15	渋江公園花壇	整地	参加者 12 名
6/22	渋江公園花壇	花苗植え付け	参加者 13 名
7/13	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ、水撒	参加者 8 名
7/24	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ、水撒	参加者 10 名
8/10	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ、水撒	参加者 8 名
8/28	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ、水撒	参加者 7 名
9/3	エコライフプラザ	ブロック会議	参加者 13 名
9/14	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ、水撒	参加者 6 名
9/25	渋江公園花壇	雑草とり、花柄つみ、水撒	参加者 8 名

第2土曜日第4水曜日が渋江公園での定期的な作業になっている。その間も、天候に応じて適宜水撒きなどを行っている。今期は割合雨が多かったので、水撒きは昨年に比べ少なくて済んだ。

今季植え付けた花苗は、よく咲くスミレ 4トレイ、キンギョソウ 2トレイ、ノースポール 2トレイ、デージー、イベリス、ハボタン、ブラキカム、ネメシア、クリスマスローズ、シロタエギク、ヒューケラ、ヘリクサム各1トレイ。ヘリクサムの育ちが良くなかった。

屋上緑化見本園花壇の維持管理は、3班にわかれ、各班月1回担当している。

活動記録(R6.4. 1～R6. 9. 30)

(第4ブロック)

月日	会場	会議名・事業名	内容
4月16日	細田グリーンバンク	定例活動	花柄等の始末、水やり
5月14日	細田グリーンバンク	定例活動	保育園児によるチューリップ球根の掘り上げ
6月14日	細田グリーンバンク		花壇の植替え(春～初秋)
7月9日	細田グリーンバンク	定例活動	ペチュニア等の花柄摘みと草取り 灌水、コスモスの種を播く。発芽を期待。
8月13日	細田グリーンバンク	定例活動	花柄摘み、草取り、灌水
9月10日	細田グリーンバンク	定例活動	花柄摘み、草取り、灌水
6月20日	新小岩間栗公園		コンポート花壇(7ヶ所) 春～初秋 植替え
7月8日	新小岩間栗公園		掃除
8月4日	新小岩間栗公園		掃除

夏シーズンの花壇の活動は、これまでと違った気温の上昇、熱中症アラート指数33、会員の皆様の健康を考えながら実施でした。

葛飾区緑化推進協力員だより 50号に寄せる

第1ブロック 佐々木 定治

緑を育てる幼児教育は人を育てること



4/5 ジャガイモの種イモ植え (園庭)



5/2 農園でのジャガイモ (区民農園：園借地)



6/19 田植え↑ 8/23 実りはじめ↓



8/15 イチジクの実り



私は子ども園の非常勤職員として勤務し、13年目を迎えました。季節ごとに園児と共に緑を育てる体験をしています。緑を育てることは、実りを期待し緑の命を育てることです。

そしてその緑の命をいただき、人間としての自分の命をつなぎ育てることです。幼児教育では自然の中で緑を育てる体験を意図的に、計画的に進めていくことが大切です。それはとりもなおさず緑を育てることを通した人間教育を推進していることです。

緑の学びは研修とブロック会で



8/30 研修会：自然観察会（自然観察レポーター） 都立水元公園

オニバス↓



スイレン



ハス



9/5 緑化推進協力員会第1ブロック会議 中央図書館↓



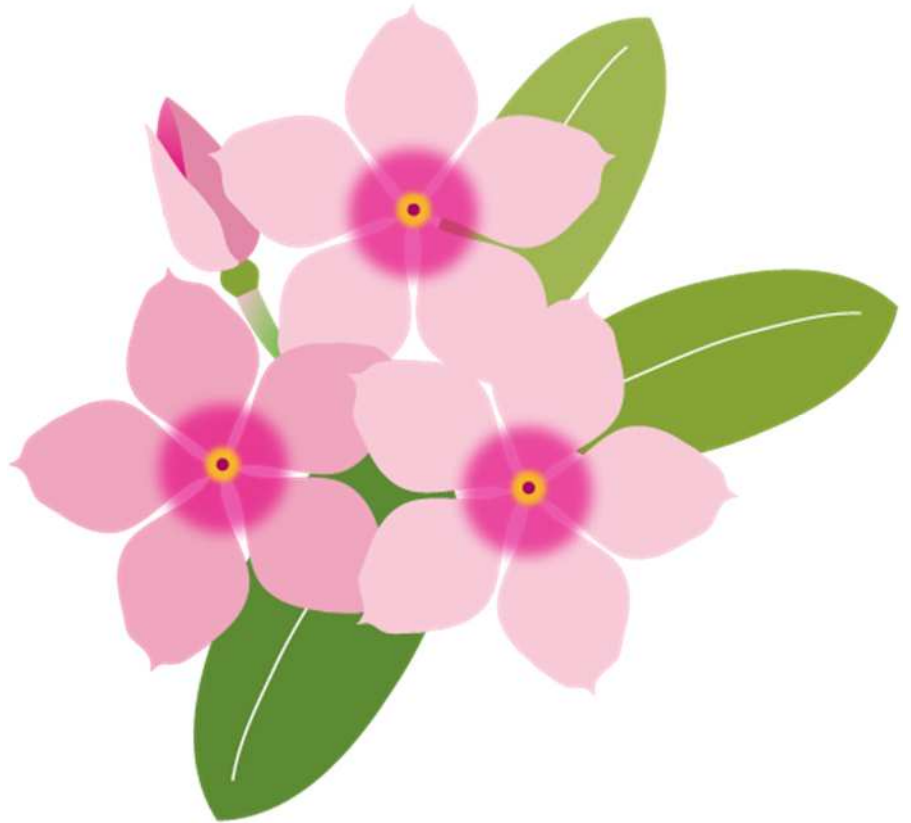
緑を育てるためには、そのための学びが必須です。その学びを支える一つに、継続的な自然観察をすることです。私は「自然環境観察レポーター」の会員として定期的な観察会やレポート報告をして資質向上の一助にしています。また「緑化協力員ブロック会議」に出て緑化推進に関わる情報交換をし、学びの質を高める努力を重ねることも必要です。9月5日のブロック会議では、①後期の活動 ②緑と花のいこいガーデン花壇植え替え ③花壇講習会 樹木フェア ④緑のカーテン講習会報告 ⑤施設見学会等を中心にした情報交換会議が和やかな雰囲気の中で、開催されました。今後の緑化推進活動に大いに役立つ会議になりました。

夏の花 ニチニチソウ

1ブロック 引地 詔子

6月10日金町駅花壇に植えた、ニチニチソウ、ペンタス、マリーゴールド、ヒマワリ、トレニア、ユウホルビア、センニチコウは元気に育ちました。ニチニチソウは4ヶ所に植えたのが、1ヶ所だけがウィルス病にかかったようで枯れてしまいました。移植を嫌うそうなので、ポットから根をくずさずそのまま植え、オルトラン粒剤をまいて、アブラムシを駆除したりと注意したのですが、今年の夏は高温と乾燥を好むそうなのですが、思うようには行きませんでした。

でも別の花は元気に育っていますので、花壇はきれいです。



猛暑にも負けず♥

2ブロック 五十嵐 美鈴

今年の夏は猛暑とゲリラ豪雨で大変だった。クーラーが苦手な私も皆から「夜、寝る時もクーラーをかけっぱなしにしないと死ぬわよ♥」と言われて、一日中クーラーをかけていた。

突然クーラーが壊れた！電線と配管にカラスウリの蔓が2階までのび、びっしり付いていた。

クーラーを設置するのに1週間かかると言われたが、店員さんの機転で3日に。ところが工事の人が、この機種は取り付けられないと機種変更に。工事が3日のび工事が完了するまで1階のソファで過ごし終わった時はホットした。

今度は1階のクーラーが運転ランプが点滅。取扱説明書を読むと室外ユニットに異物が入っていませんか？と書いてあった。みるとオリズルランの葉と茎が入っていた。取り除くとクーラーが動き出した。「よかった！」

5月から体調を崩していた私も、植物から元気をもらい強くなって頑張ろうと思いました。



激暑の夏！「ナスとピーマン」収穫０ゼロの怖さ

2ブロック 近藤文子

ナス苗を10本、ピーマン苗を10本、スイカ苗を3本。

猫の額程の屋上菜園にプランターを含め、しっかりと土造りをして植え付けた。

水と肥料が欠かせないナスは、特に気をつけたおかげか、葉は両手を広げた位に育つ。

しかし、待てど暮らせど花が咲くと、すぐしぼみ、実は7月末までに1個も収穫できず。しかたなく思い切った切戻しをして、秋ナスの収穫を待つことにした。ピーマンも同様であるが、8月に入ってから、2、3個成り始めた。徳島の妹に聞くと、「いつも近所から毎日の様にナスを頂くのに、今年は全く成らないらしく、おすそ分けがない。」との事。

気温が28.29℃に驚いていた子供の頃。

現代の親子は、35℃~40℃の中で、「しかたない」と過ごしていけるのだろうか？

お盆明けに、ナス苗を見ると、切り戻した後も、あっという間にみごとな枝ぶり。

2.3ヶ 花から実へと...ほんの少し秋が近づいているのかなと思う。

しかし、季節の野菜や果物が収穫出来なくなる現実を目の当たりにし、恐ろしい地球温暖化を実感する。

曳舟川親水公園花筏の会の花壇は、第二ブロックの皆様の活動で、立派に咲いて、区民の皆様のシャッター音が絶えない花園となった。6月に実施した花植えのイベントでは、里親ガーデン7チームのご家族の提案で、「しゃぼん玉を飛ばそう会」と茶話会を開催。花壇の手造り丸太の歩道の中を駆け巡りながら、親子の声が響く。通りがかりの子供達も参加し、ガールスカウトさん、葛飾の川をきれいにする会さん、高木区議さんも参加して下さり、まさに地域と共に「守り育てる花壇」が定着

した。

閉会の前に、清水雅子委員が、大きく書いて下さった「七色の花風船」の歌詞を見ながら皆で大合唱。ほんとうに心遣いの行き届いた第二ブロック委員の皆様に、心より感謝をしている。

さて、次の植付の時のイベントは？と、里親ガーデンのお父様より提案があり、うれしい限りである。今、令和8年5月～6月の「葛飾花博」に向けて始動している。私達第二ブロックでも、白鳥四丁目花壇の工事が終わると花壇が出来る。2か所の花壇を「葛飾らしさ」を表現できる花壇にと、委員一同案を出し合いたいと思う。花、花、花・・・と花だけの華やかさではなく、区民全員がかかわれる満足感のある花博であってほしい。

けっして、「行政主導」「何も残らない無事終わればいい花博」であってはならない。その場所がずっと残り、いつか巡って来るであろう「葛飾花博」の土台となつてほしい。

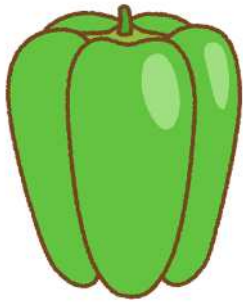
例えば、「葛飾花博記念公園」「葛飾花博花の咲く木の植樹祭」など、かかわってゆく団体、区民の皆様のご意見を集結し、「華やかな花」だけに頼らない「心の団結の花」を皆さんで咲かせましょう。「葛飾！誇りある！人情と力みなぎる町、街を！」うたい文句だけで終わらせないで、「40数万人の区民全員参加型葛飾花博」を！咲くのはけっして「花」だけではない。環境を労わる花博を、東京葛飾から発進しましょう。

(酷暑を乗り越えて)

- ・ 今日生きる 花と緑と 蝉しぐれ
- ・ ザリガニを 釣る子の額 遅しく
- ・ 雨雲の 影黒々と 夏花壇

文子





白鳥4丁目公園としばしの別れ

2ブロック 半田 建二

協力員になり早、6年が過ぎ、花壇の手入れ、花との親しみ方、日本固有種等、多くの事を千葉大学の渡辺先生より学ぶことが出来、街中の花屋さんの店先の花もわかるようになり、楽しみ倍増の今日この頃で、家の中もはないっぱいになり、【白鳥4丁目公園】へ出かける事も苦にならなくなっていますが、夏の季節は朝、夕と水やりをしないと枯れそうになりかわいそうでなりません。

夫々（それぞれ）大切な草花を全て移植することはかないませんでした。



*日よけ棚で一休み



*ある日の花壇



*新白鳥4丁目公園予想図

シラン、シロタエギク、オタフクナンテン等、小柄な植物を譲り受けました。特別変わった草花では、ありませんが、かなりの時間をともに楽しませてくれた、花たちです。

新しい公園は防災機能を兼ね備えた公園と聞いております。

出来れば防災機能のお世話に成る事なく、区民が一日中、花などを楽しめる公園であって欲しいと願っております。

小職、後何年お世話することができでしょうか。

健康管理を一番に【生涯現役】を目指して行きたいです。

キルギスより天山山脈を眺めて

2ブロック 鉄線蓮

インチョンよりビシュケクへ向かう飛行機より見える景色は、砂漠と山が長く続く、緑が見え出し、段々と増えていくと、カザフスタンのAlmatyの飛行場が近づく、6～7時間の空旅だ。見事な景色に目を奪われ、キルギスに思いを馳せる。

私が緑化推進に参加した頃、綿栽培の灌漑水の過剰使用の為、世界で4番目に広い湖アラル海消滅のニュースが流されていた。

日常着ている綿製品、Tシャツ等、お手頃価格で手に入る物だけに、回りの人々は、そんざいに扱い、まだまだ着られる物を処分し新しいシャツを抵抗なく着ている様に今でも感じられる。何とか皆に考えて頂きたいと、自分でも綿花を育ててみた。種を蒔き、花を育て、綿を取り、実を取った。やはり、水を使い糸を取るまでの手間暇の大変さを実感する。本当に色々な物を大切に扱う事を心掛けようと、再度、心に決めている。

そんなアラル海がキルギスの側にある。

中央アジア、シルクロード、三蔵法師が通った道、そう話すと、あの辺りかと、想像がつくと思う。

キルギスの首都、Bishkekは都会だ。車の渋滞、人の往来、ビル、公害等々賑やかだ。乾燥しているので、今の東京の夏よりはずっと過越しやすい。

Songkulの宿泊地に向かって車を少し走らせると、そこはもう、1500m、2000m、3000mと山が高くなって行く。山と山の間は23区がすっぽり入る様な草原だ。これが草原というものか……………。

行きかうのは、羊・馬・牛、それを追う遊牧民だ。始めての世界に目を奪われる。

牛のフンを燃料に、火を起こす、本当に無駄がない。Songkulには、エーデルワイスの花が咲いていたが、8月だけれど、朝晩は冷え、外気は2℃だ。ストーブがないと寒いがユルトの中はとても暖かい。トイレは外なので少し不便を感じるが、慣れるものだ。

湖の向こうに山々が見える。後ろは天山山脈だ。大自然に言葉がない。

富士山級の山に名前がないのだ。びっくりし、その雄大さに、唖然とする。

草原の草を見ていると、オオバコ、シロツメクサ、スギナにスミシ、酸性土壌を好む草が多くみられる。羊や牛が草をはみ、そしてフンを落とし灰をまく。そうすると、オオイヌノフグリ、ホトケのザがみられて来ると思う。そこに住む人、動物、虫が影響しあって、ちゃんとリサイクルをしバランスを保っている。本当に自然は有難い。又そこには目に見えない微生物が多いに影響していると、遊牧の民は知っていて、大切にしている。発酵と言う、文化と共存しているのだ。

日本にも、醤油、みそ、かつおぶし、などなど、発酵という文化と共存していた。それが、いつの間にか、みせかけの食文化となり、どれが本物かわからない、土作りもだ、いつの間にか、この微生物の住めない土が多くなっている。

今の私達の生活は、エアコンがないと夏を越せない。当番の花の水やりも「命懸け？」そう感じている人も、私だけではないと思う。

SongkulからTashRabat、Narynを通り、琵琶湖の約9倍の大きさ世界で2番目に大きな湖、決して凍る事がない、海拔1609メートルにあるイシククル湖へと、旅はまだつづく。



ヤマボウシと私

2ブロック 荒井 ユキ江

ヤマボウシの花が今年も良く咲きました。

母が老いて来たので堀切で過ごすことになり、その時田舎からヤマボウシの苗木も共に持ち帰りました。

91才で亡くなりました。3年半の介護でしたがその後、鉢から庭へ植え替える
と見事に咲くようになり「咲いてくれてありがとう」と手を合わせています。

今いくつかの実がなり、一つは赤い実が出来ています。

益子に行く機会があり湯呑み茶わんに楽書きで

「花に心をよせて山ボウシ」と

絵を描いて来ました。仕上がった器で食後お茶を飲んでいきます。

父・母を思い日々の暮らしの中の小さい幸せです。



夏と花と木と愛

3ブロック まあ〜ちゃん

花や木々にとっても残酷な夏でございました。パリオリンピックで、メダルを獲得おめでとうございます。相手はワールドでございます。日本新記録を出しても決勝に進めなかった種目もあります。新種目で輝くメダリストも生まれました。

さて、東京の緯度は北緯 35° でございます。パリは北緯 45° です。日本の北端稚内より北に位置しております。東京の真夏の気温は 35℃ を越える日がありましたが、パリは 25℃ なんですね。また湿度の高いのも日本の夏の特異性でございます。ロサンゼルスは、北緯 34° でも爽やかな乾燥気候でございます。

日本には四季があります、各々の時季を楽しみ工夫する文化があります。夏を涼しくするように緑化を考えられております。自然との共生、その土地ならではの工夫が生活習慣として伝えられております。木々の間から射す木漏れ日には、優しい天然の感謝を感じております。

葛飾区は、住環境に緑が多い街となっているようです。「花いっぱいの花壇コンクール」は各々の地域の方々ご協力と花や木々を愛するイベントでございます。入賞された花壇管理は、如何許りかと思えます。木々によってもたされる安息は自然界と人間生活との調和であると思えます。

この夏の異常な暑さで花々や木々も一生懸命に耐え花を咲かせ緑を与えてくれました。街の中に工夫された緑化は各々の地域環境のなかでの皆様の親切な優しさの賜物でございます。日々の生活は、CO₂を吸収してくれる緑の恩恵でございます。

雨に悩まされたら、暑さに悩まされたら、鳥が好きなら、果物の実りが欲しいなら、木を植えましょう、人生を愛するなら、木を植えましょうね。



シュンランがフリージアになった（雑草雑感 Ⅲ）

第3ブロック下井 守

とんでもないタイトルですみません。でも、まさに“そのよう”な体験をしてしまったのです。

昔、もう50年も昔、今はダムの中になってしまった丹沢の宮ヶ瀬村の鹿糞に集まるコガネムシ採集で通っていた頃、林の中で採取したシュンランを家でずいぶん長い間楽しんでいたが、いつしか続けて育てることができなくなった。

5、6年前に信州で山菜採りをしていたら、シュンランの大きな株を発見し、東京に持ち帰って大株のまま鉢植えで育てていた。ところが何年たっても一向に花をつけない。採取していた時には花を咲かせていたので、シュンランに間違いない。鉢を深鉢にした方がよいのかと考え、昨年の秋に六つに分け蘭用の深鉢に植え替え、春を待った。

すると4つの鉢で株の脇から新しい芽がでて、新しい株が成長するような様子を見せた。ただ、シュンランの葉にくらべると色が薄く、葉も弱々しい。全くの新芽だからそうなのかと解釈してそのまま水やりをしていたところ、5月になってシュンランとは似ても似つかぬ花茎が伸びてきて、その先にオレンジ色の美しい花をつけた。（写真



写真1

1) 明らかにシュンランとは異なるので、スマホ

のソフトで植物名を検索したところ False Freesia, フリージアと出てきた。

これがとんでもないタイトルの由来である。

False Freesia をさらに検索するとヒメヒオウギあるいはヒメヒオウギズイセンとあり、牧野の図鑑では熱帯アフリカから南アフリカの原産で、観賞用として栽培する多年草草花で、明治年間に輸入されたが、今はまれである、と記されている。原色園芸植物大図鑑には東京以西では露地で越冬すると書いてあるが、いろいろな野草図鑑にも掲載されており、暖地などではこぼれ種で自然に増えると書いてあった。

どうもシュンランの株分けをしたときに使用した土にその種か球根が紛れ込んでいて、それが花を咲かせたものと考えざるをえない。使用した土は新しい培養土ではなく、使い回している土だったと思う。ただ、間違いなく私はこの植物を育てたことはないのも、どこか近くにこの花が存在し、その種が紛れ込んだ可能性もあると思い、近所を探して回ったが、見つかるのは同じ色で咲くナガミヒナゲシばかりであった。

5月下旬になって、区役所近くの寺の外の道路脇に大きな株で、多数のごつい種をつけた本種を偶然見つけることができた（写真 2）。ということで家の近くではないが確かに、本種が雑草と化して自生していることを確認できた。

それにしてもシュンランと共に生えてきたヒメヒオウギがどこから紛れ込んだのか謎はとけていない。かわいい花ではあるので、少し増やしてみようかなとも思うのだが、外来種であるわけでもあり、ちょっと微妙なところでもある。

というわけで、今年もシュンランは咲かなかった。





写真2



写真1 (拡大)

教えられた 強い絆

4ブロック 田中 あや

共通するのは緑化推進協力員である事と花が大好き。

細田グリーンバンクからバス乗り場までの道は1本道。前を歩いたり後を歩いたり又、並んで歩き、何十回の繰り返し道のりだったでしょうか。

春はうららか、家々の垣根の間から見えるウグイスカブラの赤い色。オドリコソウの若草に時にはオオマルハナバチと賑やかになる。小鳥の様にほとぼしる言葉に笑ってしまう、家に着くのはまだまだ遠い。

夏の太陽は強く厳しい、なんどもなんども足を休め、又歩く。花壇の花の世話と仲間と共に会話しながら一時を過ごした事に感謝する。今日のアイスクャンディーうまかった～。又笑う。

秋は二人とも大好き。今日は寄り道をしてコスモスの花畑、ピンクに白と列にして咲き揺らいでいる。花や植物の表現活動について話をしながら、今日の二人は哲学者だね。

冬は青森の津軽は厳冬で東京はまだまだやさしい冬だとポツリとつぶやく。なつかしい、ふる里の海の話をしてくれる。魚はおいしい新鮮だと。やさしく笑う。

ボランティア活動によりさまざまな経験を重ねてこられたことに感謝する貴女はなんでもチャレンジャーでもありました。そしてワクワク感を教えてくれた貴女。

私はこの絆を忘れず、活動の幅を広げて伝えていきたいと思います。



編集後記

この夏の暑さの中でも、「緑」が取り持つ「ご縁」に感謝と感動を覚えました。

私が非常勤で出向いている「子ども園」の花のお世話に関して、沿道の花に水遣りお手伝いをしてくださるといふ方・またもうひと方は、夕刻に咲く月下美人の花を園児に見せたいとのことで、丹精込めた一鉢をお持ちくださったご夫婦。花と緑が取り持つ人と人との素敵な関りがここに見えます。酷暑の中の花の水切れを心配していただいたり、この美しくも芳香を漂わせる花を、夕時のお迎えを待つ園児の心を和ませたいと思う心遣いがそこにあるのです。

花と緑を育てることは、「人の心」を和ませるだけではなく「人の心と心」を繋ぎ、その和らいだ心を更に「広げて」いくものなのでしょう。僣越ながら、これは「緑化推進員」の神髄であり醍醐味でもあることを学びました。緑と花を育てることに感謝し、その場を提供して下さる「子ども園」と「緑を愛する地域の皆様」に敬意を表し私は、更なる緑化推進のために邁進していくことを決意しています。

1ブロック 佐々木 定治

.....*.*.*.*.*.....

夏の間は出来なかった木を防犯のために、剪定することに。

以前、私が剪定していたら「そんなに切ったら花が咲かなくなるのに！」と姉に言われたことを思い出し手が止まりました。

友人の舞台に感動、明るい気持で家に帰るとサザンカの白い清楚な花が咲いていた。令和7年は穏やかな世の中になりますように！！

2ブロック 五十嵐 美鈴

.....*.*.*.*.*.....

今年の猛暑中で、何回か枯れそうになった小菊がたくさんの花を咲かせています。日頃から、日陰に置いているので、水が少なかったりする事があるので、水やりに気にかけていました。花の少ない時期に黄色は目立ち、花の存在感を示しています。うれしいです。

3ブロック 江良 ヒデ子

.....*.*.*.*.*.....

コロナ禍も落ち着き、それぞれに日常を取り戻し日々に追われる中で心がすり減るような時がある方もいらっしゃると思います。

そんな時、花壇の花が目に入ると一時でも心が憩うと思います。

皆さんとともに活動をしていると、「いつも綺麗な花をありがとう」と声を掛けられることもありました。

やはり、街に花壇が、花があるというのは、それだけで素敵な事なんですね。

そんな風にして、そこを通る街の方々の心の癒しになっているのです。

そして、それは緑化推進協力員のみなさんの活動があってこそです。

いつもありがとうございます。

「ありがとう」と言われることも、「ありがとう」と感じてもらえるような活動ができることも、とても有り難いことですね。

4ブロック 直井 勝

